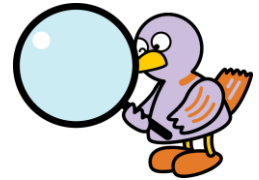


「知りたい」を応援！情報の探しかた講座



③名前で歴史を見てみよう！

系図・家紋の調べかた

埼玉県のマスコットコバトン

(平成28年11月作成)

埼玉県立熊谷図書館 TEL048-523-6291 FAX048-523-6468

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> (埼玉県立図書館のホームページ)

テーマについて

歴史を深く見ようとしたとき、人物の家系を見てみるというのは重要な観点のひとつです。貴族や武士などは、どのような流れを組む人物かを知ることによって、その人の立場や人間関係などをより理解することができます。また、テレビドラマや映画などで目にする家紋についても、誰のもので、何をモチーフにしたデザインであるかを調べることができれば、より歴史を楽しむことができるのではないのでしょうか。

今回はそんな系図や家紋について調べるのに役立つ資料やその使いかたをご紹介します。

このテキストの資料の表示について

図書は「資料タイトル」(著者・編者 出版社 出版年) [請求記号]、

雑誌は「特集タイトル」(「雑誌名」巻号 (出版社 出版年月)) といった形で表示しています。

特に請求記号については、記号の前に「書庫」、「外部」とある場合、それぞれ「書庫」は熊谷図書館内の書庫に、「外部」は外部書庫に資料があることを指しています。記号のみ場合は、その資料は熊谷図書館の閲覧室にあります。(2016年11月10日現在)

※請求記号とは、本の背表紙についているラベルにある記号のことで、その本がどこに置いてあるかを示しています。

系図について

『日本史大事典』(平凡社)によると、系図とは「氏とその首長、一族・一門、家族およびそれに付属する財産、所領、(中略)種々の職能について、その始祖、起源からの歴代の由来を図示したものの総称」であり、その成立については「八世紀から九世紀にかけて、天皇の命による諸氏の系譜の提出、その集成が試みられるとともに、さまざまな動機から諸氏それぞれに多様な系譜・系図が作成された」とされています。

系図には偽の系図も存在します。落ちぶれた武家などから系図を買い取ったり、架空の系図を作成し、無理やり著名な人物と家系を繋げたりといったことがあります。

また、系図とよく似た言葉に「系譜」があります。系図と系譜の違いは、系譜は文章による注記などを含む点や、系図と異なり系線による図示がない場合がある点などが挙げられます。

系図を調べる際に参考になる資料

- 『系図研究の基礎知識 第4巻 総括』(近藤安太郎著 近藤出版社 1990)【書庫 288.2/ケ】
主要な系図集の解説や家系の調査方法が収録されている。
- 『日本史小百科 7 家系』(豊田武著 近藤出版社 1978)【書庫 288.2/カ】
著名な氏族と家系の解説や主要な系図集の解説が収録されている。
- 『系図文献資料総覧』(丸山浩一編 緑蔭書房 1992)【R288.2/ケ】
系図などの基本史料や文献の紹介、都道府県別・所蔵機関別の系図文献の目録、家名ごとの参考文献を収録している。

系図を含んだ事典(辞典)

- 『日本家系・系図大事典』(奥富敬之著 東京堂出版 2008)【R288.2/ニホ】
日本史上の著名な姓氏・名字で1,318の見出しを立て、約4,500家系に逐一言及。それぞれの発祥、名字の地、近代に至る累代の変遷やエピソードなどを解説。2,280の系図を併せ掲げている。
- 『日本史諸家系図人名辞典』(小和田哲男監修 講談社 2003)【R288.1/ニホ】
系図と人名辞典が一体化した資料。古代から幕末・明治維新まで、歴史を動かした豪族・公家・武家の401家プラス天皇家・6親王家の主要人物8,800人を収録。

総合的な系図集

- 「尊卑文脈(そんぴぶんみやく)」(『国史大系』第58～60巻、別巻2(吉川弘文館)【210.08/コ】に収録)
室町時代までの諸氏に伝来した系図を集めて、流派ごとに大成したもの。書名の「尊卑」は、皇室から諸家・諸道にわたることを意味しているが、帝王系図は『国史大系』本にされておらず、「本朝皇胤紹運録(ほんちょうこういんじょううんろく)」(後述の『群書系図部集』所収)として独立してまとめられている。
- 『群書系図部集(ぐんしょけいずぶしゅう)』第1～7巻(塙保己一編纂 続群書類従完成会)【書庫 R288.2/ケ】
日本の古書を集録・合刻した叢書「群書類従」の系譜部と「続群書類従」の系図部に収録されている系図をまとめたもの。元禄5(1692)年成立の「諸家系図纂(しょけけいずさん)」の大部分のほか、諸家伝来の系図を広く収録。天皇、公家、武家などの諸氏系図約400点収録。中世以降に興起した地方の豪族の系図も含む。
- 『系図綜覧(けいずそうらん)』上下巻(国書刊行会編集 名著刊行会)【R288.2/ケ】
「諸家系図纂」のうち前述の『群書系図部集』に収録されなかった系図やその他の諸系図を収録。大正天皇までの皇室、江戸時代初期までの諸国の公家、武家、社家などを収録している。
- 『系図纂要(けいずさんよう)』第1～15冊、別巻1～3(名著出版)【R288.2/ケイ】
安政4(1857)年までの皇室、公家、武家、釈家(仏門)など60姓777家。子女の名前も収載。前述の「尊卑文脈」、「諸家系図纂」ほかの系図類を類別編纂し、かつ簡略化したもの。別冊1～3巻に姓氏索引、没年一覧がある。

○『日本史総覧』1～6、補巻 1～3(今井堯[ほか]編 新人物往来社 1983-1986)【R210.03/ニ】

下記の各巻に系図を集録している。

1巻:皇室 3巻:仏教宗派、浄土真宗、武家 4巻:琉球王統

5巻:徳川将軍、大名、豪商、能楽・狂言諸流派、歌舞伎俳優、俳諧・連歌、歌道、香道、花道、茶道、囲碁、将棋、神道、国学、心学、洋学、工芸・美術

補巻1巻:親王、公家、儒学、武術

武家(大名・幕臣)の系図集

○『寛永諸家系図伝(かんえいしょかけいずでん)』第1～15、索引1～2(斎木一馬[ほか]校訂 続群書類従完成会)【書庫 R288.2/カ】

江戸幕府が編纂した最初の系図集。寛永20(1643)年完成。大名・旗本諸家約1,400家を収録。清和源氏、平氏、藤原氏、諸氏の4部および医者、同朋、茶道の項からなる。

○『寛政重修諸家譜(かんせいちょうしゅうしょかふ)』第1～22、家紋、索引1～4(続群書類従完成会)、別巻1～2(八木書店)【R288.2/カ】

上記『寛永諸家系図伝』に続く江戸幕府編纂の系図集。徳川氏を除く大名・幕臣約10万名を収録。各家の由緒、事績、家紋のほか、個々人の事績も含む。

○『徳川諸家系譜』第1～4(斎木一馬 [ほか]校訂 続群書類従完成会)【R288.2/ト】

徳川将軍家、御三家、御三卿など徳川氏本支流の系図集。「柳営婦女伝系」(将軍の正室、側室などの女性の系図を収録)を含む。

○『断家譜(だんかふ)』第1～3(田畑吉正著 斎木一馬, 岩沢愿彦校訂 続群書類従完成会)【R288.2/ダ】

文化6(1809)年成立。慶長(1596～1615)から文化年間までの約200年間に廃絶した大名、御目見(おめみえ)以上の約800家の系譜書

公家の系図集

○『華族譜要(かぞくふよう)』(維新史料編纂会編 大原新生社 1976)【書庫 R288/179】

明治17年以降、昭和3年7月までの華族を列した諸家の系図集である、「現代華族譜要」(『続日本史籍協会叢書 [1]10』(日本史籍協会編 東京大学出版会 1976)【210.58/ゾ】)に復刻あり)に、昭和19年までの華族を追加した復刻版。

系図を特集している雑誌

○「系図でたどる日本の名家・名門」(『別冊宝島』2266号(宝島社 2014年12月17日発行))【書庫】

○「戦国武将 最強の家系図100」(『別冊宝島』1992号(宝島社 2013年4月28日発行))【外部】

○「名前と系図・花押と印章」(『週刊朝日百科 日本の歴史別冊 歴史の読み方』8号(朝日新聞社 1989年3月25日発行))【外部】

系図集の選びかた

系図集には収録している年代の範囲と、収録している人物の種類に違いがあります。例えば、「尊卑文脈」(室町時代までの系図を収録)では江戸時代の人物は調べられませんし、武家の系図集や、公家の系図集とは収録されている人物は異なります。

まずは、調べたい人物の生きた年代と身分を確認して、系図集の対象範囲に入っているかを確認しましょう。また、有名な氏によっては個別の系図集があります。

○『清和源氏(せいわけんじ)740 氏族系図』第1～3巻(千葉琢穂編著 展望社 1985)【R288.2/セ】

○『桓武平氏良文系全系図(かんむへいしよしふみけいぜんけいず)』第1～3巻(千葉琢穂編著 展望社)【R288.2/カ】

○『藤原氏族系図』第1～7巻(千葉琢穂編著 展望社)【R288.2/フ】

実際に系図を調べよう

例題①藤原道長の系図が見たい

【調査例】

『日本家系・系図大事典』(奥富敬之著 東京堂出版 2008)【R288.2/ニホ】
896 ページから「藤原氏」の項目あり。904 ページの系図に「藤原道長」あり。

『寛政重修諸家譜 索引二』(続群書類従完成会)【R288.2/カ】
p359「道長(藤原)」あり。「①198,199 ②22,23」とあり。

『寛政重修諸家譜 第十一』 198,199 ページ→「藤原氏統括」の項目あり。198 ページに「道長」あり。199 ページに「頼道頼宗長家流」あり。

『寛政重修諸家譜 第二十一』 22,23 ページ→「藤原氏統括」の項目あり。22 ページに「道長」あり。23 ページに「道長流」あり。

例題②熊谷次郎直実の系図が見たい

【調査例】

『日本史諸家系図人名辞典』(小和田哲男監修 講談社 2003)【R288.1/ニホ】
272 ページ「熊谷氏」の項目あり。系図あり。

『系図纂要 別冊1』(名著出版)【R288.2/ケイ】
姓氏索引をみると、21 ページに熊谷[平]と熊谷[多治比]があり。
「熊谷[平]→「③327/上」とあり。

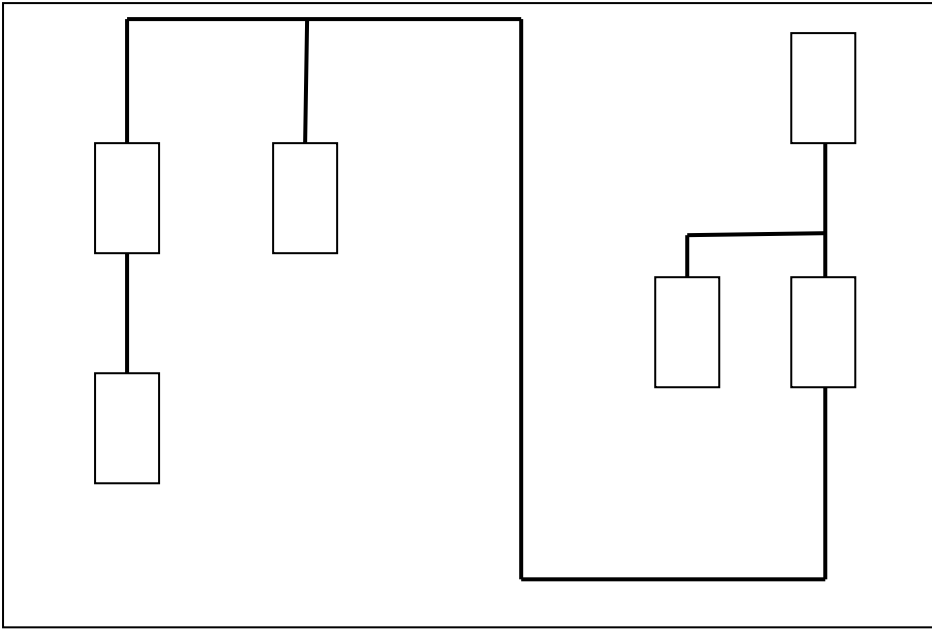
『系図纂要 第8冊上』 328 ページに「直實」があり(「實」は「実」の旧字体)。尻付に「熊谷二郎」とあり。

「熊谷[多治比]→「⑭198/上」とあり。

『系図纂要 第14冊上』198 ページを確認すると「直実」なし。

系図の見方

系図の一例



尻付(しりづけ)について

それぞれの人名には尻付(注記)が付けられます。原則的に各世代の人名はやや大きく書き、尻付は小さく書きます。尻付は各人名の右・左両方に書く場合と、左側だけに書く場合とがあり、いずれが正しいということはありません。

尻付には、幼名・通称・任官・官位・生没年月日・戒名・主たる経歴など、さまざまな事柄が記載されます。これは系図によって様々です。

『寛政重修諸家譜』の松浦氏の系図

隆信

源三郎 肥前守

鎮信

源三郎 肥前守 入道鎮信

式部卿法印母は隆景が二女

郷土で知られている人物を調べたり、自身の家系図を作ったりするには

地方でのみ知られている人物や、ご自身の家系を遡って系図を作ったりする場合には、郷土資料にあたるのが有効です。

・分限帳(ぶげんちょう・ぶんげんちょう)

分限帳とは江戸時代の各藩の家臣名簿で、氏名・石高・所領が記録されたものです。

○『分限帳集成』(埼玉県県民部県史編さん室編 1987)【S205/サ】

近世の埼玉県域に関する幕府・諸藩・旗本の家中分限帳

○『埼玉叢書 第2巻』(稲村坦元編 国書刊行会 1970)【S290.8/サ】

「鉢形北条分限録」、「成田家分限帳」や、主要な家系の系図が収録されている。

※分限帳については埼玉県立図書館ウェブサイトにて《分限帳(武士の職員録)について調べる》として、調べものに役立つ資料案内があります。

(https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib_doc/reference/pathfinder/pathfinder1211.html 埼玉県立図書館)

・諸国地誌

江戸時代に幕府・藩・個人などにより各地で風土記が編纂されました。この中には郡村ごとに人物誌が収録され、系譜や系譜的記事が豊富にあります。例として、埼玉県の風土記には『新編武蔵風土記稿』があります。

○『新編武蔵風土記稿』(蘆田伊人編集校訂 雄山閣 1996)全12巻、索引編【S290.1/シ】

徳川幕府が、文化7年(1810)～文政11年(1828)にかけて編纂した武蔵国の地誌。

・県都市町村史

地方自治体の編纂した、市町村史も参考になります。例えば、『埼玉県史』(埼玉県)の別巻四(年表と系図)には民間諸家系図が数多く収録されています。

○『新編埼玉県史 別編 4 年表・系図』(埼玉県編 埼玉県 1991)【S201/サ】

・県別の姓氏研究書

各県ごとの姓氏研究書が刊行されています。例えば、埼玉県だと『埼玉苗字辞典』などがあります。

○『埼玉苗字辞典』第1～4巻(茂木和平著 茂木和平 2004)【S288.1/サイ】

膨大な文献類に記載されている名字・氏・人物情報をまとめ、50音順に配列。その名字がどの地域に分布していたか、由来のほか、氏・人物の情報もあり。一部についてはインターネット上でも公開されている。

・地域ごとの人名辞典・人名録

地域の氏族の流れや人物を知るにあたって、人名辞典や人名録も役に立ちます。

○『熊谷人物事典』(日下部朝一郎編著 国書刊行会 1982)【S285.1/ク】

○『埼玉人物事典』(埼玉県教育委員会編 埼玉県 1998)【S280.33/サイ】

・その他埼玉県関係資料で参考になるもの

○『埼玉史料辞典』(埼玉新聞社編 埼玉新聞社 1968)【S200.3/サ】

諸氏系図、旗本名および旗本知行地一覧、武道系図等あり。

自身の先祖の調査方法や系図作成について記述がある県立図書館の資料

- 『戸籍を読み解いて家系図をつくろう』(清水潔著 日本法令 2009)【288.2/コセ】
- 『簡単便利家系図作成マニュアル』(太田さとし著 楡井範正監修 ビジネス社 2002)【288.2/カン】
- 『家系のしらべ方 わが家の先祖研究から系図・系譜作成まで』(丸山浩一著 金園社 1998)【書庫 288.2/カ】
- 『あなたも系図が作れます』(丹羽基二著 新人物往来社 1993)【書庫 288.2/ア】
- 『系図のつくり方 先祖を10代以上調べられる本』(日本系譜出版会編 琵琶書房 1984)【書庫 288.2/ケ】
- 『家系図をつくる 菩提寺の過去帳、墓碑銘は、何を語るか。』(町口充著 冬樹社 1984)【書庫 288.2/カ】
- 『系図のつくり方 その調査から表装まで』(日本系譜出版会編 琵琶書房 1982)【書庫 288/N71】
- 『先祖をさがす本 自分で系図をつくるコツ』(麻生定夫著 文潮出版 1977)【書庫 288.2/セ】
- 「苗字・地名・家紋で調べる先祖と家系の鑑定法」(『歴史読本』第41巻16号(新人物往来社 1996年9月)【外部】

家紋(紋章)について

『日本史大事典』(平凡社)によると、紋章とは、「ある特定の図案を用いて、個人、一家、一族、団体、結社などを表徴する標識。」「古くは「家紋」「家の紋」「定紋(じょうもん)」「紋じるし」「紋所(もんどころ)」などと称していたが、このうち「家紋」は厳密に言えば武家の紋のみに用いられていた呼称である。世界で家の紋章を用いるのは、ヨーロッパの貴族社会を除いては日本のみである。」とあります。

また、日本の紋章の起源は諸説ありますが、一説には平安時代(十一世紀前半)、公家の衣服、調度、牛車(ぎっしや)に各自が好みの文様を用いたのがその始まりとされています。武家の家紋の成立は、敵味方識別の目印としての必要性のため、著しく普及しました。

家紋の使用の制限・統制は菊・桐・葵紋および領主の家紋を除いては、名字のように使用を禁じられることはなかったため、紋付を着用できるほどの者は、勝手次第に用いていました。

家紋は、日月星辰(じつげつせいしん)・動物・植物・調度・文字・文様などに分類されます。このうち家紋としてもっとも多いのは植物です。

※上記のように、「家紋」とは厳密には武家の紋のみの呼称ですが、このテキストにいう「家紋」とは紋章全般のことを指すものとします。

家紋について知るのに参考になる資料

- 『日本紋章学』(沼田頼輔著 人物往来社 1968)【書庫 288.6/ヌ】

わが国で、紋章に関する最初の画期的な研究書。「総説」と「各論」にわかれ、前者では紋章の起源、歴史、地理的分布などを述べ、後者では天文、植物、動物、文字紋などに大別して、それらの紋と姓氏との関係などを述べている。

- 『日本の紋章』(渡辺三男 毎日新聞社 1976)【書庫 288.6/ニ】

江戸時代に大名・旗本の氏名・系譜・家紋など武家の大要をしるした『武鑑』を底本として、家紋の歴史、種類などを概説した解説書。

- 『家紋入門』(木屋進著 日本文芸社 1983)【書庫 288.6/キ】

大別した家紋の中の小さい違いについても解説している。

- 『日本の家紋』(進士慶幹、加藤秀幸共著 新人物往来社 1969)【書庫 288.6/シ】

代表的な家紋についての解説と家紋の起こりを記した資料。

- 「知っておきたい家紋と名字」(『別冊宝島』246号(宝島社 2016年6月27日発行))

- 「家紋と名字 知っておきたい家紋と名字の由来」(『別冊宝島』2190号(宝島社 2014年6月)【書庫】

どちらも歴史上の有名な人物の家紋や代表的な名字の家紋を紹介している。

家紋を調べるのに参考となる資料

- 『苗字から引く家紋の事典』(高澤等著 東京堂出版 2011)【R288.6/ミ】
主要 1,000 名字を掲げ、名字ごとに家紋を紹介する、逆引きの家紋事典。名字と発祥地、使用家紋の 3 つのデータを羅列。

- 『都道府県別 姓氏家紋大事典 東日本編』(千鹿野茂著 柏書房 2004)【R288.1/ト】
- 『都道府県別 姓氏家紋大事典 西日本編』(千鹿野茂著 柏書房 2004)【R288.1/ト】
著者の 45 年に及ぶ全国家紋調査の結果を都道府県別にまとめた 1 冊。家紋の分布状況や姓氏・出自の関係、実地調査によってわかった従来の説の訂正や新発見の家紋などを掲載・解説する。

- 『日本家紋総鑑』(千鹿野茂著 角川書店 1993)【R288.6/ニ】
収録家紋数は約 2 万。家紋の種類ごとに由来、使用家を収録。

- 『沖縄家紋集』(宮里朝光監修 那覇出版社 1998)【R288.6/オキ】
資料名のとおり、沖縄の家紋と使用姓氏を知ることができる。

- 『戦国武将「旗指物」大鑑』(加藤鐵雄著 えにし書房 2016.8)【288.9/セン】
戦国時代の武将 236 人、約 450 の旗指物を屏風絵などの一次資料を中心に再現・編集。各武将の略歴・家紋も掲載した本格的旗指物資料戦国武将の家紋のほか、旗印と簡易な系図を見ることができる。

- 『日本家紋大事典』(丹羽基二著 新人物往来社 2008)【R288.6/ニホ】
大別した家紋ごとの解説あり。収録家紋は 6,278。

- 『家紋大図鑑』(丹羽基二著 秋田書店 1986)【書庫 R288.6/ニ/】
7,500 種程度の家紋が収録されている。家紋について、逸話や歴史、文学などを引用しながら解説している。

- 『家紋の事典』(高澤等著 千鹿野茂監修 東京堂出版 2008)【R288.6/カモ】
大別した家紋ごとの解説があり、索引から家紋名で調べることもできる。今日、実用されている主要な家紋 253 種 3,000 点余りを精査し、図柄、使用家、分布など解説。

- 「日本の家紋 6000」(『別冊歴史読本』第 27 巻 12 号(新人物往来社 2002 年 4 月 18 日発行))【外部 BM288/ニ】
名称ごとの名字と出自から家紋を探すことのできる索引付き。

- 『すぐわかる家紋と姓名』(吉田大洋著 弘済出版社 1977)【書庫 288.9/セン】
土地ごとの代表的な家紋と使用姓名がわかる図書。

- 『家系・家紋ハンドブック』(真藤建志郎著 PHP研究所 1996)【書庫 288.6/カ】
代表的な家紋の解説と、代表的な名字の家系が使用している家紋の解説をしている資料。

- 『「家紋と家系」事典 名前からわかる自分の歴史』(丹羽基二著 講談社 1995)【B288.6/カ】
文庫サイズの資料。家紋索引と名前索引がついている。

実際に家紋に関して調べてみよう

例題①「忍城の藩主成田氏の家紋を見たい」

【調査例】

『苗字から引く家紋の事典』(高澤等著 東京堂出版 2011)【R288.6/ミヨ】

398 ページ「ナリタ 成田」の項目に「1 埼玉県熊谷市上之(かみの)」また、「戦国時代は忍城主として勢力あり」と記述あり。

『都道府県別 姓氏家紋大事典 東日本編』(千鹿野茂著 柏書房 2004)【R288.1/ト】

「埼玉県の家紋」の中の「埼玉県姓氏家紋早見表」から「成田」を引くと、435 ページに出自ごとの成田家の家紋あり。

例題②「武田菱の家紋を見たい」

【調査例】

『日本家紋総鑑』(千鹿野茂著 角川書店 1993)【R288.6/ニ】

後ろの索引から調べることができる。836 ページに「武田菱」の家紋と、説明あり。

『日本家紋大事典』(丹羽基二著 新人物往来社 2008)【R288.6/ニホ】

目次から「菱(ひし)」をみると、586 ページから「菱・花菱」の項目あり。591 ページの最上段右端に武田菱あり。

例題③「天皇家の家紋は菊だが、それはなぜか知りたい」

【調査例】

『日本家紋大事典』(丹羽基二著 新人物往来社 2008)【R288.6/ニホ】

目次から「菊」をみると、244 ページから記述があり、246 ページに「菊紋」の説明あり。

『日本の家紋』(進士慶幹, 加藤秀幸共著 新人物往来社 1969)【書庫 288.6/シ】

12 ページから「菊紋(一)」の項目があり、説明も記載あり。

講座テキスト作成に使用した参考資料

県立図書館所蔵資料

- 『日本史大事典 第2巻 か～け』(平凡社 1993)【R210.03/ニ】
- 『日本史大事典 第6巻 へ～わ』(平凡社 1994)【R210.03/ニ】
- 『系図研究の基礎知識 第4巻 総括』(近藤安太郎著 近藤出版社 1990)【書庫 288.2/ケ】
- 『日本史小百科 7 家系』(豊田武著 近藤出版社 1978)【書庫 288.2/カ】
- 『家系のしらべ方 わが家の先祖研究から系図・系譜作成まで』(丸山浩一著 金園社 1998)【書庫 288.2/カ】
- 『系図のつくり方 先祖を10代以上調べられる本』(日本系譜出版会編 琵琶書房 1984)【書庫 288.2/ケ】
- 『系図のつくり方 その調査から表装まで』(日本系譜出版会編 琵琶書房 1982)【書庫 288/N71】
- 『先祖をさがす本 自分で系図をつくるコツ』(麻生定夫著 文潮出版 1977)【書庫 288.2/セ】

インターネット情報

《日本の系図(系譜)集 調べ案内》(http://navi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-148.php 国立国会図書館)

インターネット情報の最終確認日は平成28年11月10日